



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2022 年度 No.2)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2022 (第 21 回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2022 開催のご案内
- ◆2023 年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HCS)
- ◆研究会活動紹介 (AC)
- ◆研究会活動紹介 (MVE)

=====

FIT2022 (第 21 回情報科学フォーラム) 開催のご報告

企画幹事  
三上 弾 (工学院大)

第 18 回情報科学技術フォーラム FIT2022 が、9 月 13 日(火)から 15 日(木)まで、慶應義塾大学矢上キャンパスにおいて開催されました。本フォーラムは、IPJSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002 年から毎年継続して開催しております。

今年度は、FIT としては初めてハイブリッド形式での開催となりましたが、大きなトラブルもなく活発な質疑が行われました。近年好評を博している「トップコンファレンスセッション」では今年も 3 日間で 11 セッション、計 58 件の発表をしていただきました。FIT 期間内の研究会開催にも取り組みました。「IT 情報系キャリア研究セッション」では、2 日間で合計 18 団体(企業および地方独立行政法人)と学生とが直接対話する機会を提供することができました。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られる FIT2022 船井業績賞を受賞された杉山将氏(理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長/東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授)の受賞記念講演も行われました。

一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を 1 件その場で選び贈呈する FIT 奨励賞の受賞者が 76 名選ばれました。

次回は、2023 年 9 月 6 日(水)～8 日(金)に大阪公立大学中百舌鳥キャンパスで開催予定となっています。

参考情報

- ・FIT2022 ウェブサイト：<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/>
- ・FIT2023 ウェブサイト：<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2023/>

=====

HCG シンポジウム 2022 開催のご案内

企画幹事  
三浦 貴大 (産総研)

HCG シンポジウムは今年度で 20 回目を迎えます。これまでに、工学分野に加え、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学・認知科学、社会科学、生理学、デザイン学などの分野の研究者も参加しやすい、活発な議論の場を提供いたします。

COVID-19 の世界的流行の煽りを受けて、もはやオンラインコミュニケーションは日常となっています。一方で、そのような状況にも関わらず、私達のリアルなコミュニケーションに対する渴望は未だ失われていません。今はまさに、リアルコミュニケーションの美点を再考しつつも、新時代のヒューマンコミュニケーションを確立するための遷移期であるとも考えられます。このため、本シンポジウムは初のハイブリッド形式での開催を行います。

ぜひ積極的にご参加いただき、オンライン/オンサイトともに会を活発化して頂きますと幸いです。

#### 【概要】

HCG シンポジウム 2022

「リアル・バーチャルが響き合うヒューマンコミュニケーション」

- ・会期：2022 年 12 月 14 日(水)～2022 年 12 月 16 日(金)
- ・会場：サンポート高松（香川県高松市）およびオンライン  
※Zoom, oVice, Slack 等を通じて現地会場/オンラインを連携
- ・サイト：<https://hcg-ieice.org/hcg-symposium/2022/>
- ・申込み：<https://hcg-symposium.peatix.com/>（準備中）

#### 【企画】

・招待講演：

葛岡 英明（東京大学 大学院 情報理工学系研究科）

「with コロナ社会におけるこれからの遠隔協調」

・チュートリアル講演：

徳井 直生（慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科／株式会社 Qosmo）

「創るための AI 一人の創造性と AI の未来像」

・特集テーマセッション：

ソーシャル・インタラクション

ロケーション・インフォマティクス

テレワークの受容とテクノロジー・心理

インターバースにおける体験デザインとその評価

ユーザーニーズに即した視覚障害者支援

(パラ)スポーツと(パラ)eスポーツ

#### 【オンライン開催方法】

・招待講演・チュートリアル講演：Zoom ウェビナー(予定)

・口頭発表：Zoom

・インタラクティブ発表・休憩・懇親会：Ovice (予定)

【懇親会】(予定)

- ・会場：オンライン
- ・日時：12月15日(木)夜

---

2023年総合大会投稿のご案内

企画幹事  
三上 弾 (工学院大)

電子情報通信学会では、例年、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。今回は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)を含む4ソサイエティ1グループが一堂に会して、以下の要領で総合大会を開催いたします。異なる分野の研究動向の効率的な調査、参加者との交流等にもご活用ください。皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ちしております。

会期：2023年3月7日(火)～10日(金)  
会場：芝浦工業大学(さいたま市)

講演申込期間：2022年11月4日～2023年1月6日17:00(厳守)

詳細は、大会Webサイト

<https://www.ieice-taikai.jp/2023general/jpn/> (10月17日現在未公開)  
をご確認ください

---

研究会活動紹介(HCS)

HCS委員長  
神田 智子(阪工大)

ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会の活動について、今後の展望を含めてお伝えします。数多の学会・研究会と同様にHCS研究会も、2020年3月から2022年3月にかけて、オンライン開催が続いていましたが、2022年は2年ぶりにハイブリッド開催を行いました。直近1年から23年3月までの開催状況とテーマは以下のとおりです。

- ・2021年10月 変化する生活のコミュニケーションとデザイン(オンライン)
- ・2022年1月 食とコミュニケーション(オンライン)
- ・2022年3月 SDGsとコミュニケーション(オンライン)
- ・2022年5月 コミュニケーション支援(HIP, SIGCEと合同)(沖縄産業支援センター・ハイブリッド)
- ・2022年8月 音楽・メディアインタラクションに関する研究(VNVとの共催)(関西学院大学・ハイブリッド)
- ・2022年10月 感情とコミュニケーション(オンライン)
- ・2023年1月 身体的コミュニケーション(京都工芸繊維大学・ハイブリッド)
- ・2023年3月 テーマ未定、(静岡県常葉大学)(開催形態は未定)

HCS研究会は、人間同士のコミュニケーションを対象にした研究者の集まりです。心理学と工学のバランスを考慮した幹事団を構成し、両分野の意見を取り入れながら研究会を運営しています。しかしながら、研究会の発表件数や参

加人数は、他の研究会と同様、2020年から21年にかけて2-3割減少しました。オンライン開催が続いたことで、研究者同士の交流が狭まったこと、質疑応答が活発に行われなくなったこと、懇親会がないため新しい研究者同士の交流の場を生み出す土壌がなくなっていることなどが原因だと考えられます。

コロナ禍で対面のコミュニケーションが失われた2年を、研究会が不活性化した2年にするのではなく、再起することで新たな研究会の価値創造につなげていきたいと考えています。コロナ禍で分断されたコミュニケーションを、今後どう回復させるかもHCS研究会の研究テーマではないでしょうか。質疑応答や情報交換、研究コミュニティ形成のためにオンラインメディアを活用することで、「発表者、聴講者ともに、参加してよかったと思える研究会」「学生の発表を増やし、継続して学生に発表してもらえる研究会」を目標に活動して参ります。

今後もHCS研究会では、コミュニケーションに興味を持つ研究者の輪を広げ、様々な分野の研究者の交流の場を提供していきたいと考えています。皆さまの活発なご発表、ご参加をお待ちしております。

ヒューマンコミュニケーション基礎 (HCS) 研究会

<https://www.ieice.org/hcg/hcs/wp/>

=====

研究会活動紹介 (AC)

AC 委員長  
道満 恵介 (中京大)

魅力学研究会 (SIG-Attractiveness Computing ; AC 研) は、2017年8月に発足し、今年で6年目を迎える研究会です。

テキスト、音声、画像・映像といったメディアデータの処理・認識は半世紀以上に渡って研究が行われ、ビッグデータの拡充や機械学習・深層学習の成熟、計算機能力の向上とあいまって様々な実ビジネスに応用されるに至っています。一方、そのように客観的に誰しもが理解できる情報だけでなく、感情・情動、感性といった人間の内部状態に紐付いた「メタな情報・状態」の処理・認識が求められつつあります。その中で「刺さる」「映える」といったコト・モノをいかに魅力的にするかということが重要になりつつあります。魅力の処理・理解・認識のためには単に従来のコンピュータサイエンス分野だけにとどまらず、いわゆる人文科学分野を含む多様な分野の知を結集する必要があります。しかし、魅力を切り口とした研究を行う諸分野の人材・研究成果が散在し集約されていないという現状が、魅力研究の発展を妨げる一因になっています。そこで、分野縦横断的に魅力研究に関する学術・産業界の研究者が集まる場を提供し、学問として深掘りしていただくだけでなく異分野研究者同士のコラボレーションを創出しようという趣旨で設立されたのがこのAC研究会です。実際、多くの共同研究、産学連携が生まれています。

これまで、魅力に関する国際会議併設ワークショップと国内シンポジウムを毎年開催しており、いずれも多くのおーディエンスを集め、活発な議論が交わされました。国際ワークショップについては研究会発足前から主催しており、マルチメディア系国際会議であるIEEE Multimedia Big Data (BigMM) で2回、IEEE International Conference on Multimedia & Expo (ICME) で1回、ACM International Conference on Multimedia Retrieval (ICMR) で4回の開催実績があります。シンポジウムについては、2020年度のみCOVID-19の影響で開

催しませんでした。2021年度は完全オンライン開催、今年度は現地とオンラインのハイブリッド開催という形態で、毎回数件の招待講演を企画してきました。その他、シンポジウムに連動する形で合宿形式討論会も企画しており、関連研究室の学生による研究プレゼンを通じた学生間の交流を促進しています。また、ほぼ毎年9月と3月のMVE研究会に協賛する等の活動をしております。

今年度の国際ワークショップおよびシンポジウムは終わりましたが、来年度以降も同様のイベントを開催する予定です。詳しくは <http://www.attractiveness-computing.org/> をご覧いただき、来年度以降の参加をご検討ください。

---

## 研究会活動紹介 (MVE)

MVE 委員長  
清川 清 (奈良先端大)

---

メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会 (MVE) では、名称にエクスペリエンスとあるように、技術による新たな体験やその価値に着目するユニークな研究会です。メディアを利用した新体験・新発見、およびVRをはじめとする今そこにはない環境によるヒューマンインタフェース基盤に関連する研究成果発表と専門家による意見交換の場を提供しています。産業界から10名以上の委員に参画いただいていることも特色のひとつです。

コロナ禍では多くの人々がオンラインメディアに注目し、これを用いた新たな体験を模索してきましたが、これはMVEの方向性にピッタリと符合するものでした。この流れを受けて、多くの学術イベントが縮小傾向にあった中で、MVEは比較的活発に活動できていると認識しています。例えば2021年9月の研究会では「リモートエクスペリエンスの魅力」、2022年3月の研究会では「変化する生活での五感に訴えるオンラインメディアとその評価」といったテーマを設定しました。研究会の開催形態でも、2020年10月には早くも現地とオンラインのハイブリッドスタイルを取り入れるなど、新しい試みを続けています。

MVEでは、研究成果の価値を技術的側面だけではなく、利用者体験の側面からも議論するよう心がけています。研究成果が社会実装されることを意識し、社会のどのような問題を解決し、どのような価値を生み出そうとしているのかを明確にするよう、デザイン思考のアプローチも取り入れながら建設的な議論を行います。このように、研究の方向性や着地点を重視することから、アイデア段階や萌芽的な研究発表も歓迎しています。

例えば、「ショート発表」では2枚の原稿で発表が可能ですし、学生や若手研究者向けに「萌芽セッション」を設定しています。また、文章形式で専門家による論文へのコメントやアドバイスが得られる「メンタリング制度」も用意しており、優れた発表に対しては「MVE賞」の表彰を行っています。

MVEは非常に間口が広く、どのような発表に対しても暖かく迎え入れる文化があります。皆様のご研究をさらに発展させるために、必ずや有益な気付きを得る機会になることと思いますので、是非、積極的なご投稿をお願いいたします。

MVE研究会ウェブサイト：  
<https://www.ieice.org/~mve/>

